

肺炎球菌感染症→肺炎球菌ワクチン（プレベナー13®）

細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎、副鼻腔炎などを起こします。

髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、死亡や重い後遺症の残る例もあります。肺炎や中耳炎は治りにくかったり、繰り返したりします。耐性菌も多く治療が難しいこともあります。予防接種で免疫をつけると耐性菌も予防できるので重要です。

生後2か月になったら肺炎球菌ワクチンを接種しましょう。

肺炎球菌が原因となる疾患

肺炎球菌がのどなどから体に入って発症します。

細菌性髄膜炎になっても早期の症状は発熱と不機嫌くらいで、血液検査をしてもかぜと区別ができないことも多く、早期診断が難しい病気です。その後、ぐったりする、けいれん、意識がないなどの症状が出てきます。診断がついても、抗菌薬が効かない耐性菌が多く、治療は困難です。肺炎をおこした場合は、ウイルス性肺炎と異なるといへん重症になります。中耳炎の場合は、耐性菌が多いので重症で治りにくくなります。

肺炎球菌ワクチン（プレベナー®）は非常に効果的で90種類以上ある型から感染を起こしやすい型に対する免疫をつけることができますが（プレベナー13だと13種類です）、それ以外の型に感染してしまう可能性があるのですべての肺炎球菌の感染を予防することはできません。